



いわき

意和氣の力と心でチャレンジ!

由利本荘市立岩城中学校
2023. 3. 11(土) NO. 35
文責：校長 倉田

祝 卒業

11日(土)、ご来賓の皆様や保護者の方々の出席を賜り、卒業証書授与式を挙りました。35名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

私からは、コロナ禍という制限された状況に負けず、中学校3年間を精一杯に取り組み、岩中生としての範を示してくれたことに心からの感謝を伝えました。

また、「卒業生の皆さんが進むこれからの時代は、先行きが不透明で、予測が困難な時代であると言われる。そのような時代に求められる力の一つに「コミュニケーション力」があり、本校の掲げる目指す生徒像「和やかな心で他と接し関わり合う生徒」は、コミュニケーションを通して、人として大きく成長するための目標です。この目標の下、考えの違いを認め、考えのよさを受け入れ、新たな考えを創造しようとする姿勢を身に付け、一流の岩中生になるべく取り組んだ3年間は、きっと皆さんの将来につながるはず。岩城中学校というフィールドを離れても、これまで培ってきた「意和氣の力と心」を大切に、みなさん一人一人が、地域、そして社会の一員として活躍されることを期待しています。」というような言葉を贈りました。

卒業生の保護者の皆様からは、これまで3年間にわたり、本校の教育活動に対して特段のご理解とご支援・ご協力を賜りました。誠にありがとうございました。卒業式にご臨席賜りましたご来賓の方々、そして、かかわりのあった、全ての方々にも、改めて敬意を表しますとともに、お礼を申し上げます。



送辞 在校生代表 * * * *

冬の間、厳しい表情を見せていた日本海も、ようやく穏やかな春の光に満ちてくる季節となりました。この佳き日に、晴れの日を迎えられ

た三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

不安でいっぱいだった一年生の春。温かい笑顔で話しかけ、緊張をほぐして下さったのは、一つ上の学年の皆さんでした。皆さんの優しさ、温かさがあったからこそ、私たちは新しい環境に慣れることができました。

それ以来、私たちが在校生にとって、皆さんは常に目標であり、あこがれの存在でした。三年生が近くにいるだけで、大きな安心感がありました。先輩方との思い出を振り返ってみると、三年生はいつも先頭を走りながら、私たちの背中を優しく押して下さっていたことに、改めて気づきます。

「プレイ ア ロット」をテーマに行われた、春の岩中大運動会。テーマの通り、一つ一つを楽しもうとする姿勢が、全身から伝わってきました。クラスが一丸となって、どの種目にも全力を尽くし、勝利を目指し、そして結果を残していく姿に、私たちは圧倒されました。団結力の強さ、元気のよさ、パワー。何をとっても、到底三年生にはかなわないと感じました。

秋の岩中祭。生徒会長の*****さんの挨拶にあった「会場に来て下さったすべての方々に、”岩中しか勝たん”と言ってもらえるような岩中祭にしてみせます。」という言葉に、並々ならぬ意気込みが感じられました。ステージ、展示、バザー、ミュージカル、アート、そして昨年度なかったアトラクションの七つの部門での活動となりましたが、リーダーとして私たちを導いて下さる三年生のパワーは、とても偉大なものでした。お客様に楽しんでいただくためにアイデアを練る皆さんの姿から、私たちはたくさんを学びました。三年生の合唱、「旅立ちの時～アジアンドリームソング～」の、一人一人の思いが厚く重なった素晴らしい合唱は、忘れることができません。「これこそ三年生のすごさだ」と、心が震えました。

そんな行事を大成功に納めることができたのは、「感恩謝徳」のスローガンを掲げた、第四十一期生徒会の力です。あいさつ運動では、明るい笑顔で私たちを迎えて下さり、互いに挨拶を交わすことでいい一日をスタートすることができました。目安箱を置いたことも、生徒一人一人の思いを大切にしたいという生徒会の方針からでした。生徒に対して、いつも笑顔で温かく接して下さり、しっかりとリーダーシップをとって下さる三年生。本当にすごいと思います。

そんな三年生の力は、部活動においても素晴らしい輝きを放っていました。地道な日々の練習を積み重ねることの大切さ、感謝することの大切さ、目標を高く掲げることの大切さ、そして全力を尽くすことの大切さを、身をもって教えていただきました。

部活動の集大成でもある、地区総体。東北大会に出場したバドミントン女子シングルスをはじめ、地区大会団体第三位の剣道部、中央地区大会金賞の吹奏楽部、女子自由形や個人メドレ

一で地区大会一位を納めた水泳部などが、県大会に出場しました。大きな栄光の裏にある、日々の地道な努力を、私たち後輩は知っています。そんな大きな背中を追って、私たちも邁進したいと思います。

これから皆さんが進む道は、平らで歩きやすい道ばかりではないかもしれません。自分の思い通りにいかなかったり、挫折を味わうこともあるでしょう。しかし、そんなときこそ、岩中三本柱で培ってきた集中力、他を思いやる心、粘り強くやり抜く気力で、乗り越えて下さい。今後直面する大きな壁を越えるための、大きなエネルギーになってくれるはずです。「やる時は、気合いを入れて真剣にやる」という姿勢、「本気で取り組むことの大切さ」、「何事も諦めずに、努力し続けること」・・・様々な行事や部活動を通して、三年生のみなさんから学んだことはたくさんあります。そんな三年生が卒業してしまうのは、とても寂しく、心細いですが、私たちは、皆さんが築きあげてきた岩城中学校の伝統をしっかり引き継ぐとともに、皆さんのように、輝かしい歴史の一ページを作り上げていけるよう、日々、懸命に努力したいと思います。「一流の生徒」となり、岩城中学校を「一流の学校」にすることを、ここに誓います。

最後になりますが、私たちは、皆さんの後輩としてこの中学校で生活できたことに心から感謝し、誇りに思います。今まで、本当にありがとうございました。皆さんの、ますますのご活躍と輝かしい未来を、心からお祈りし、送辞といたします。

答辞 卒業生代表 * * * *

頬を伝う風も和らぎ、今年はずっとより早く春めいてきたようです。

暖かな陽の光があふれるこの佳き日に、私たち三十五名は義務教育九年の全課程を修了し、この思い多き学び舎から巣立ちます。

思い起こせば三年前、私たちの小学校の卒業式に、一番いてほしかった父や母の姿はありませんでした。加えて十二年前の今日、三月十一日に起きた東日本大震災を思うと、こうして先の方や家族に見守られながら卒業式を迎えられます。ありがとうございます。四十一期生一同かみしめていきます。私たちの中学校生活はコロナ禍と共に始まりました。入学式は三週間延期され、それから訪れる行事のひとつひとつが中止や規模の縮小を余儀なくされました。しかし、例年とは違うからこそ味わえる経験と捉え、できる範囲の精一杯とは何かを自問し続けた日々でした。

運動会は午前だけの日程になってしまいました。生徒会企画の障害物競走をはじめ、大縄跳びや、リレーなどを通して、息を合わせてみんなで勝利に向かって走り抜ける喜びや達成感を味わいました。毎日遅くまで準備をした岩中祭。三年ぶりに午後も開催することができ、全校での合唱も叶えられてとても楽しい時間となりました。また、修学旅行は先生方や保護者の方々のご尽力のおかげで、念願だった東京方面への観光ができて、とても嬉しかったです。

不満を言ったら切りませんが、それらも全て自分次第で楽しい思い出に変えることができると学びました。

何よりも、部活動での経験は私たちにとってかけがえのない大きな財産となりました。最後

の総体を目の前に、二か月間の休部を余儀なくされた時には、部活動の垣根を超えて一緒に町内を走ったり、素振りをしたりしました。その結果、バドミントン部のシングルスで東北大会、剣道部と水泳部、吹奏楽部は全県大会への出場を果たすことができました。くじけそうな心を互いに支え合ったことは今でも忘れられません。

そして受験。人生で初めての試練はやはり厳しく、不安に押しつぶされそうになりました。それでも教室に入ればいつもの元気あふれる笑顔に支えられ、毎日の勉強を頑張ることができました。みんなと一緒にだったからどんな試練でも乗り越えることができました。

在校生の皆さん、私たちは生徒会活動や部活動など様々な場面で皆さんのユーマアあふれる考えや、何事にも前向きな姿勢に助けられました。至らないこともあった私たちでしたが、皆さんがいてくれたからこそ、たくさんのご挑戦できました。本当にありがとうございます。今、私なら三本柱と「自主・創造」の精神を受け継ぎ、さらに発展させることができるはずだと思います。大切な仲間と過ごせる時間は限られています。これからも仲間を大切に、一瞬一瞬を悔いなく過ごしてください。

いつも私たちの成長を温かく見守ってくださった先生方、入学したての私たちはまだ幼く、ご迷惑をおかけしては叱られたこともありました。時に納得がいかなかったこともありました。先生方はそんな私たちに納得がいくまで話して下さい、導いてくださいました。ありがとうございます。心より感謝しています。

そして、どんなときも私たちの一番の味方でいてくれたお父さん、お母さん方。今日まで育ててくださりありがとうございます。時には生意気なことを言って困らせ、たくさん心配をさせてしまいましたが、今日無事この晴れ姿を見せることが出来たととてもうれしいです。三年前に聞いてもらうことのできなかつた卒業生としての合唱を、今日はあの時の分まで届けます。これからもどうか私たちを暖かく見守ってください。

今、私たちは新たなスタートラインに立ちます。嬉しかった瞬間も、時にはケンカしたこと、悲しくて一緒に泣いたことや腹の底から笑いあったことも、すべてを分かち合い、支え合ってきたこの最高の仲間たちと、明日からは別々の道を進んで行くのだと思うととても寂しいです。そのような中で、私はとても勇気づけられる言葉に出会いました。

「士にして居を懐うは以て士と為すに足らず」

これは中国の思想家、孔子の言葉で、〈暮らしやすい土地での安住にこだわっているのは本来の目的を達することは出来ない。〉という意味です。

私たちも温かく楽しかった、ここでの生活にずっと居続けることはできません。今日の別れは、辛いものですが、やりたいことを叶えるには避けては通れない道です。卒業生の皆さん、岩城中学校でのたくさんの思い出と仲間たちとの絆を糧に、それぞれの思い描く未来に向かって力強く歩んで行きましょう。

結びに岩城中学校のさらなる発展と、本日御臨席頂いた皆様のご多幸をお祈りし、答辞とさせていただきます。